

【教科名】 聖書科

(1) 目指すもの

3年、または6年間聖書を学ぶことによって、本学院の根本理念であるキリスト教を重層的に理解する。キリスト教の持つ歴史性、普遍的且つ有意義な倫理観、ユニークかつ豊かな思想と創造性に触れることで、「道徳人、実力人、世界人」としての人間形成を目指す。聖書科では、神に対しても世界に対しても広く開かれた明るい知性をもって思索し、判断することができる人間形成を目指す。そのために、3年・6年間を通して、旧約聖書、新約聖書や、建学の精神に基づいた教養を身につけるための授業計画となっている。

(2) 授業の進め方

聖書科としての課題：2019年度から中学における「道徳」の教科化が始まった。聖書科として事前に「道徳」教科書、授業展開を研究し、また2018年度副校長を中心とした話し合いを持ち、本校の道徳教育と聖書科教育の在り方について、研究を進め、明治学院としての道徳と聖書科教育の在り方を模索して、2019年度から以下のようなカリキュラムを展開した。

中1、中2、中3、基本的テーマは共通

1学期	2学期	3学期
隣人を自分のように愛する 愛されている自分・隣人	心を神様に向ける 祈る生き方 平和教育の展開	明治学院の歴史 ヘボン博士の生涯と生き方
サブテーマとして		
中1 キリスト教入門 聖書入門 明治学院とプロテスタントキリスト教の日本伝道		
中2 イエス・キリストの生涯・イエスの教え イエスに従う人々 十字架につけられるイエス		
中3 旧約聖書入門 世界創造と神 アブラハムの生涯 出エジプトとイスラエルの民		

これまでの講義型の授業から、自分で考え、また協働して学ぶ形・アクティブラーニングを展開する授業を目指す。評価についても、学期ごとに10段階で評価するが定期テストは実施せず、授業におけるレポートや発表、作品を数値評価する。

原則として全学年同じテーマで、成長段階（学年）で変化をつけながら進める。学年にあった形で聖書を用い、中1ではキリスト教入門を特徴とした授業展開を持ち、中2では新約聖書、特にイエス・キリストの生涯を学ぶことで、道徳的諸問題に触れ、考えることができるようにする。中3は旧約聖書を用いつつ、平和学習との連携した授業等を展開する。

(3) 使用教材について

全学年の共通テキストとして『明治学院共通テキスト』（新教出版社）と『キリスト教資料集』（日本基督教団出版局）を使用し、中2では『旧約聖書の教え』（創元社）を副教材として用いる。

各担当者の授業展開に基づき、独自のテキスト・プリント等を使用する。

評価の観点と方法

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①関心・意欲・態度	聖書やキリスト教に対する関心を持ち、課題に取り組むこと（中1、中2は）『ヤバいぜ聖書』のアクティブラーニングに取り組み、自分の考えを述べる、聖書を読み、その物語に興味を持つこと。話し合いに参加し、自分の意見を持つこと。聖書やキリスト教の教えで示された道徳的課題について取り組む意欲を持つ。
⑤知識・理解	「主の祈り」や重要な聖句を正しく理解し、覚える。聖書やキリスト教の歴史的背景や教えの内容を正しく理解する。聖書やキリスト教の教えで示された道徳的課題を知識として理解する。

(2) 評価の方法

観点 \ 評価材料	確認テスト	小テスト	聖書通読	発言発表	作文や感想文	課題や調べ学習	ノート	授業態度
①関心・意欲・態度			○	○	○	○	○	○
⑤知識・理解	○	○		○	○	○		

(3) 評価のポイント

・課題について、基本的には10点程度を目安として取り組む。評価のポイントと照合して、正しい、よく理解しているものを10~9点、ある程度理解し、内容を満たしているものを7~6点、努力しているが不十分であるものを4~3点、として評価する。

・小テストも10点程度のものを行う。（学期末にその学期の学習成果を問う確認テストは20点くらいまでを目安として行う）出題内容を理解し、正しい答えであるかを問う。

確認テスト

・これまでの授業内容を確認するためのテスト。ノートを取り、重要語句の意味や教えの内容を理解しているかを問題とする。ノートを中心に勉強することがポイント。

小テスト

・「主の祈り」や「聖句」を覚えるためのテスト。正しく覚えているかを問題とする。指示された聖句や祈りを書いて覚えるとよい。

聖書通読

・指示された聖書（例えば『ルカによる福音書』）を少しずつ読み進める課題。聖書に親しむこと、疑問や納得したこと、興味を持ったこと、等の読書感想を持つことがポイント。

発言・発表

・グループワークでの発表やグループ同士で討論する取り組み。自分の意見を持ち、積極的にグループワークに取り組み、発言することがポイント。

作文・感想文

- ・指示された文章や聖書の感想や課題の作成。提出期限を守ること、文の内容を正しく理解していること、正しく課題に取り組んでいること、自分の考えを披露していることがポイント。

課題・調べ学習

- ・指示された資料や参考文献に基づいて課題に取り組み、課題を完成させる取り組み。資料や参考文献を十分に用いて課題に取り組んでいること、指示した課題内容に従って課題に取り組んでいること、がポイント。

ノート

- ・授業を受けて、その内容を理解し、ノートを作成しているかを問う。授業内で配布された資料やプリントをきちんと添付してあることも問われる。

教会出席

- ・夏期休暇時における教会の礼拝出席を6学年共通の課題として出し、また毎週日曜の礼拝出席も奨励している。礼拝出席カードを学期末に回収し、礼拝出席は評価の対象としている。この課題を通して、教会との連携を深めていく。

*各家庭の事情等を配慮しつつ安全かつ出席しやすい教会を紹介するよう丁寧に対応する。

【教科名】 聖書科

最終到達目標		旧約聖書・新約聖書や、建学の精神に基づいた教養を身につけることで、神に対しても、世界に対しても広く開かれた明るい知性をもって思索し、判断することができる人間形成を目指す。			
ST	学年	コース	授業目標	授業ポイント	使用教材
第1ステージ	中学1年		「キリスト教入門」 明治学院の歴史を学ぶことで明治学院で学ぶ意義を知る。 キリスト教について、また旧約・新約聖書についての概要を学ぶ。	キリスト教、聖書に初めて触れる生徒であることに注意し、丁寧に指導する。 学年行事と関連して授業を展開する。	『ヤバいぜ！聖書』 『キリスト教資料集』
	中学2年		「イエス・キリストの生涯」 イエスの教え、たとえ話、奇跡物語など、福音書を中心にイエスの生涯とその教えや働きを知り、その意義を理解する。	新約聖書をめぐる歴史的背景や地理的条件、当時の文化などイエスの時代を多角的に理解させる。	『ヤバいぜ！聖書』 『キリスト教資料集』 『旧約聖書の教え』
第2ステージ	中学3年		「旧約聖書入門」 創世記から世界・人間の意味を知る。族長物語から信仰の生涯を学ぶ。出エジプト記から十戒を学び、聖書の倫理を知る。	旧約聖書の基本的な世界理解、人間理解を学び、生徒の人間性や倫理意識等、社会性の発達を促す。	『ヤバいぜ！聖書』 『キリスト教資料集』
	高校1年		移行生クラス 明治学院の歴史と幕末・明治期のプロテスタント・キリスト教の活動について学ぶ 新約聖書から「初代教会の歩み」を学ぶ 新入生クラス キリスト教入門 宗教の概要、旧約・新約聖書の概要を学ぶ 明治学院について	移行生クラス 明治学院についての理解を深める キリスト教の基本的な教えを理解する。 新入生クラス 聖書・明治学院に親しみを持つようにする。	『ヤバいぜ！聖書』 『キリスト教資料集』
第3ステージ	高校2年	理	*全コース共通 「旧約聖書」 古代イスラエル王国の歴史を知る。旧約聖書全体の教えを網羅し、特に預言者の教えを学びながら、旧約聖書のメッセージを把握する。	古代イスラエル王国の歴史や文化をより深く知ること、旧約聖書に示された聖書の信仰を知る。	1学期 出エジプトから王国時代 2学期 王国時代と預言者 3学期 諸書：詩編、知恵文学、他
		文			
	推薦				
高校3年	理	*全コース共通 「キリスト教の歴史」 原始キリスト教団成立から、古代教会～中世、そして宗教改革から近代の教会におけるキリスト教の歴史的歩みを学び、キリスト教の歴史的歩みを理解する。	高校最終学年としてキリスト教の基礎知識を確認する。 キリスト教史を学ぶことでキリスト教についての学問的知識と共にキリスト教信仰への真摯な態度を育む。	1学期 4福音書の成立と1～4世紀のキリスト教 2学期 ローマ帝国末期から中世ヨーロッパ宗教改革	
	文				
	推薦				

年間指導目標	キリスト教について、旧約・新約聖書についての概要を学ぶ。 明治学院の歴史を知り、キリスト教学校の意義を学ぶ。
--------	---

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容
1 学期	中間	『キリスト教資料集』 『ヤバいぜ！聖書』	はじめての聖書	聖書を学ぶ意義を理解し、キリスト教の由来を知る。 *1学期中に東京都内及び埼玉県の教会を紹介する。 授業で礼拝について、祈りについて、聖書についての基礎を学ぶ。
	期末		キリスト教入門	「聖書」「主の祈り」など、キリスト教についての基本的な知識を理解する。 聖書の様々な物語に親しみ、豊かな人間性を育む。
2 学期	中間		旧約聖書・新約聖書入門	旧約新約聖書を概論的に学び、その信仰観を理解する。 アブラハム、モーセ、ダビデ王等を物語として紹介し、聖書に親しむ機会を持つ。
	期末		旧約聖書・新約聖書入門	新約聖書を概論的に学び、その信仰観を理解する。 イエス・キリストの生涯を物語として紹介し、聖書に親しむ機会を持つ。
3 学期	学年末		明治学院とキリスト教	江戸時代末期～明治初期におけるヘボン博士の活動を中心としたプロテスタントキリスト教の動きを学び、明治学院誕生～発展の歴史的意義を把握する。 明治期～昭和初期にいたる明治学院の歩みを日本の近代・現代史と関連づけて学ぶ”

年間指導目標	イエス・キリストの生涯 イエスの教え、たとえ話、奇跡物語など、福音書を中心に学ぶことで、イエスの生涯における働きの意義と教えの内容について理解を深める。
--------	---

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容
1 学期	中間	『キリスト教資料集』 『ヤバいぜ！聖書』 『旧約聖書の教え』	イエス・キリストの生涯について 新約聖書・福音書概観	新約聖書をめぐる、歴史的背景や地理的条件、また当時の文化など、新約聖書の世界を多角的に理解する。 *1 学期中に東京都内及び埼玉県の教会を紹介する。
	期末		ナザレのイエス その生涯の活動	ナザレのイエスが登場した紀元1世紀の状況を把握し、ナザレのイエスの人物像を考察する。
2 学期	中間		ナザレのイエス その生涯の活動	イエスの生涯における教え、たとえ話、奇跡物語、人々との歩み、を学ぶことで、イエスについての理解を深める。
	期末		ナザレのイエス その生涯の活動	イエスの生涯……教え、たとえ話、奇跡物語、人々との歩み、を学ぶことで、イエスについての理解を深める。クリスマスに向けて、降誕物語を取り上げ、神の御子の誕生(受肉)の意義を学ぶ。
3 学期	学年末		ナザレのイエス 十字架と復活	十字架の死と復活を中心に、キリスト教の中心教義である「イエスの死による罪の赦し、神との和解、復活の生への希望を学ぶ。 また、イエスの復活によって、教会(キリスト教)が誕生し、全世界にイエスの教えが宣べ伝えられていった原始教会の歩みを学ぶ。

年間指導目標	旧約聖書入門 創世記から世界・人間の存在意義を知る。 創世記・族長物語から信仰の生涯を学ぶ。 出エジプト記・十戒から聖書の倫理を学ぶ。
--------	--

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容
1 学期	中間	『キリスト教資料集』 『ヤバいぜ！聖書』	旧約聖書の世界 創世記1～11章	旧約聖書をめぐり、歴史的背景や地理的条件、当時の文化などを理解する。
	期末		旧約聖書の世界 創世記1～11章	創世記1～11章を中心に、その信仰を学ぶ。その中で、神と人間、人間と世界の関わりを、旧約聖書の視点を基に個々が思索できるように導く。
2 学期	中間		創世記12章以降 父祖の物語	アブラハム、イサク、ヤコブ等、イスラエルの父祖物語を学ぶ中で、旧約聖書の信仰、思想、文化を把握する。彼らの生涯を比較参照しつつ、自己の生涯を思い、人生の歩みを確立してゆくように導く。
	期末		創世記12章以降 父祖の物語 出エジプト記について	アブラハム、イサク、ヤコブ等、イスラエルの父祖物語を学ぶ中で、旧約聖書の信仰、思想、文化を把握する。彼らの生涯を比較参照しつつ、自己の生涯を思い、人生の歩みを確立してゆくように導く。 出エジプト記を学ぶ中で、旧約聖書の基本的信仰を理解する。
3 学期	学年末		出エジプト記と十戒	出エジプト記の「十戒」を学び、聖書の基本的な倫理観を学ぶ。また、その後のイスラエル民族の歩みをいくつか取り上げつつ、神の戒め(教え)と人間の関係を学び、旧約聖書的人間観を理解する。自己形成期にあつて、基本的な自己・世界理解や倫理、社会性等を学びの中で成長させる。

年間指導目標	移行生クラス 明治学院の歴史と幕末・明治初期のプロテスタント・キリスト教の伝道活動について学ぶ 新約聖書から「初代教会の歩み」を学ぶ。
	新入生クラス 明治学院について、キリスト教について、旧約・新約聖書についての概要を学ぶ。

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容
1 学期			移行生クラス 使徒パウロの伝道を (パウロ書簡)から学ぶ	使徒パウロの伝道活動を「使徒言行録」や彼の書簡(ローマ、コリント、フィリピ)から学ぶ。初代教会の抱えていた問題を知ること、現代を生きる我々の問題と重ねて深く考えるようにする。
			新入生クラス 初めてのキリスト教 聖書の基礎知識	『聖書』を用いて、聖書の世界について理解を深め、聖書の基礎知識を学ぶ。 旧約聖書の「天地創造」から始まる聖書の歴史観を学び、イスラエル民族の始まりから、出エジプトの出来事までに示された救済史を学ぶ。 *1学期中に東京都内及び埼玉県の教会を紹介する。
2 学期		『キリスト教資料集』 『ヤバいぜ！聖書』	移行生クラス 1世紀の教会	12使徒や使徒パウロの没後、教会が様々な問題に直面し、その中でその信仰をどのように守りつつ活動していたかを福音書を通して学び、キリスト教信仰の真髄に迫る。
			新入生クラス 聖書入門「新約聖書」	新約聖書に啓示された、イエス・キリストの生涯を通して、キリスト教の福音とは何かを知る。主イエスの誕生、山上の説教、たとえ話を学び、福音理解を深める。 *クリスマスに向けて特化した授業も展開する。
3 学期			移行生クラス 4福音書の成立	4福音書からキリスト教の歴史的な歩みを学び、思想的・信仰的内容を理解する。
			新入生クラス 聖書入門「新約聖書」	主イエスの受難～十字架の死～復活から福音を学ぶ。
			共通内容 ヘボン博士と明治学院 の歴史 幕末～明治期 のキリスト教	江戸時代末期～明治初期におけるヘボン博士の活動を中心に、プロテスタントキリスト教の活動を学び、明治学院誕生～発展の歴史を知ると共にその意義を理解する。

年間指導目標	旧約聖書について 預言書、歴史を中心に学ぶ。旧約聖書全体の教えを網羅しつつ、特に預言者の教えを学ぶことで、旧約聖書のメッセージを把握する。
--------	---

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容
1 学期	中間	授業進度に従って、適宜必要な資料を用意して、配布する。	旧約聖書概説と古代イスラエル民族の歴史的歩み	旧約聖書の「創世記」「出エジプト記」を中心に、古代イスラエル民族の歴史的歩みや信仰的な特徴を学ぶ。
	期末		出エジプトからカナンの地征服	旧約聖書の中心的指針「出エジプト」について、その出来事の外観的理解を深めつつ、信仰内容を学ぶ。また、カナンの地(現イスラエル)への侵入・定着について歴史的歩みを理解し、王国成立に至る前提を学ぶ。
2 学期	中間		イスラエル王国統一時代	古代イスラエル王国期の歴史・社会・文化を学び、旧約聖書の背景をより専門的に理解する。その中で、活動した預言者たちを、その時代背景に照らし合わせつつ学び、彼らの思想や活動を把握する。
	期末		イスラエル王国南北分裂時代	古代イスラエル王国期の歴史・社会・文化を学び、旧約聖書の背景をより専門的に理解する。その中で、活動した預言者たちを、その時代背景に照らし合わせつつ学び、彼らの思想や活動を把握する。
3 学期	学年末		イスラエル王国王国滅亡時代と預言者たち	古代イスラエル王国の崩壊～バビロン捕囚期～古代ユダヤ教団の成立期の歴史・社会・文化を学び、旧約聖書における信仰の深まりを諸書を中心に理解する。また、新約聖書時代に至るまでの、歩みを知る。

年間指導目標	キリスト教史の基礎を学ぶ。 原始キリスト教団の成立から古代教会、中世の教会、宗教改革から近代への歴史的歩みを理解する。 キリスト教会の歴史を学ぶことでキリスト教への理解を深める。
--------	---

学期	時期	使用教材	単元(章)	学習内容	
1 学期	中間	授業進度に従って、適宜必要な資料を用意して、配布する。	原始キリスト教団の成立から古代教会の歩みについて	ナザレのイエスによる「神の国運動」から原始キリスト教団の成立、古代キリスト教会の歩みを、その歴史的歩みを学びながら思想的・信仰的内容を理解する。	
	期末		古代教会から中世の教会へ	ローマ帝国で成長し、「ローマ帝国の宗教」として国教化してゆく古代キリスト教を、その歴史的歩みを学びながら思想的・信仰的内容を理解する。 また、主に西方ヨーロッパにおいて「ローマ・カトリック教会」として成立したキリスト教が、ヨーロッパ中世を生み出し、ヨーロッパ文明の基礎となってゆく歴史的歩みを学ぶ。	
2 学期	中間		中世の教会から宗教改革について	ローマ教皇とローマ・カトリック教会によって生み出された「中世」の歴史的変遷とその意義や後の時代への影響を学ぶ。 また、中世文化や十字軍運動、様々な修道会など、中世カトリック教会の様々な側面を学ぶ。	
	期末		宗教改革及び、近代の教会の歩み	ルネッサンス期から宗教改革におけるヨーロッパ世界の歴史的動きを、キリスト教、特に宗教改革(ルター、カルヴァン、カトリックの改革運動、イギリスの改革運動)を中心に学ぶ。 可能ならば、アメリカでのピューリタンとアメリカで生まれるアメリカ型キリスト教の特徴を学ぶ。	
3 学期	学年末				